

■提言書の構成イメージについて ～世話人会での検討をもとにしたイメージ～

◎9月末に提出する「提言書」は、「基本構想に相当する部分」(総論)と、「基本計画に相当する部分」(各論)で構成する。

⇒ 元々、市からは基本構想に対する提案(方向性)が求められているが、基本計画に相当する部分(具体策など)も提言していく。

◎総論については、「意見交流会での報告内容」、「これからの10年間の認識」を踏まえ、「大切にしている考え方」、「将来都市像(あしたの箕面)」、「地域経営のあり方」を提言していく。たたき台の作成のため、「検討チーム」を立ち上げる。

⇒ 将来都市像については、あらゆる分野についてまちづくりの方向性を示すものとして構築します。

⇒ 検討チームに参加いただける方を募集します。検討チームは、有志+分科会リーダー+世話人で構成します。

◎各論については、分科会で引き続き検討していく。

⇒ あらゆる分野について提言するのではなく、市民会議として、重要と考える分野について提言します。

(ただし、総論の内容を検討・整理していくなかで、分科会に追加的に検討をお願いすることが出てくる場合があると思われます)

⇒ 各分科会においては、意見交流会での成果と経験を踏まえ、「多様な意見の収集」、「地域別課題と方向性の検討」について、特に留意しながら検討(肉付け)を進めることとします。

⇒ 各分科会の検討成果については、下記の項目(共通フォーマット)に沿って、6月末を目途にとりまとめていくこととします。

箕面市民会議
提言書の構成イメージ

■はじめに
(提言にあたって、住民、地域コミュニティ、ボランティア、NPO、事業者、議会、行政に向けての市民会議からのメッセージ)

基本構想到相当

■総論

1. 提言の背景
箕面市を取り巻くこれからの10年
—暮らしの変化、身近な問題
—国や地方自治の変化
(※他に、箕面市の特性、主要課題など)

2. 大切にしている考え方
“元気な箕面”を未来の世代へ
“新しい自治”を創造しよう
“自助・共助・公助”

3. 将来都市像(あしたの箕面)
“●●なまち・みのお”
[くらしの姿、まちの姿]
“●●なまちとなっている”
[地域の姿]
[まちづくりの姿]
“誰もが地域社会の担い手として、役割を分担し、互いに助け合うまちづくり”

4. 基本目標
(※いくつかの柱に取り組みを体系化)

5. 地域経営のあり方
[地域経営のあり方]
[次期総合計画の位置づけ・役割]
“誰もが地域社会の担い手として、役割を分担し、互いに助け合うためのみんなの計画”
[地域経営や総合計画の推進の仕組み・体制]

基本計画に相当

■各論

1. 分野ごとの目標
●●なまち [めざす暮らし・まちの姿]

2. 指標
[目標の達成状況を測るモノサシ]

3. まちの現状と課題(きょうの箕面)
[まちの現状とまちづくりの課題]

4. 必要な取組
[市民等が取り組むこと]
[市民等・行政が協働で取り組むこと]
[行政が取り組むこと]

(参考) 第4次総計の基本構想の構成

1. 総合計画の趣旨
2. 総合計画策定の背景
(本市の特性、主要課題等)
3. 将来都市構想
人のあたたかさとかげがない自然を守り育てる都市“みのお”
ときめきと豊かな人生をつくりだす都市“みのお”
安全で快適に暮らし続けられる都市“みのお”
4. 基本目標
安心な暮らし～健康で快適な生活をいつまでも～
・保健・医療・福祉の充実
・生活環境の整備と保全
・安全の確保
いきいきとした暮らし～成長・ゆとり・うるおいを次世代まで
・文化の振興と教育・学習環境の充実
・自然環境の保全
・産業の振興
暮らしを支える～生活に必要な基盤整備と市民主体のまちづくり
・秩序ある市街地の形成
・多様な市民活動の推進

